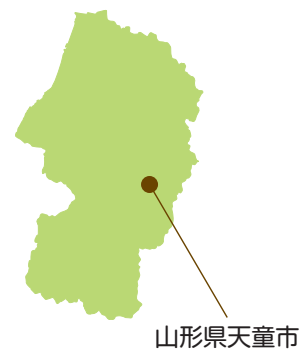


男女分け隔てなくスキルアップできる環境を整備

# 株式会社やまがたさくらんぼファーム

※2017年3月現在

|        |   |      |  |
|--------|---|------|--|
| 代表者名   | 矢萩 美智   | 資本金  | 3百万円   |
| 設立年    | 1986年4月14日  | 売上高  | 214百万円<br>(2016年3月31日)                               |
| 事業内容   | 生産(サクランボ、西洋ナシ、リンゴ)、消費者直売、加工・製造、観光・交流                        | 経営規模 | 樹園地6ha、加工施設10㎡<br>(ソフトクリーム製造)、直売所100㎡(販売アイテム数:約50種類) |
| 従事者数   | 14人(うち女性4人。女性内訳:管理職1人、一般職2人、常勤パート1人)                        |      |  |
| 女性活躍支援 | [女性に配慮して取組んだ環境整備]<br>施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワーの設置)、重労働等の業務改善 |      |  |



山形県天童市

## 経営概況

(株)やまがたさくらんぼファームは、果樹生産の盛んな山形県天童市に位置し、サクランボを主として桃、ブドウなどの果樹の生産、加工・販売、観光果樹園を行っている法人である。経営面積は約6haで、加工所、カフェ・飲食スペースを併設している直売所を有している。加工品は、カフェで販売している果汁100%ジュース、ソフトクリーム、パフェに加えて、地元の酒造会社と共同開発したサクランボリキュール、和菓子店と共

同開発したサクランボ大福など多岐にわたる。また、観光果樹園でもある同ファームでは、サクランボは5月中旬～7月中旬、ブドウ、桃などの果物は11月中旬まで“フルーツ狩り”ができ、年間来場者数は3万人を超える。

従業員は役員3名、正社員6名、常勤パート5名の計14名であり、うち女性は4名(管理職1名、一般職2名、常勤パート1名)で、主に加工・販売部門を担っている。2015年度の売上は2億1,409万円となっており、2014年度の売上1億8,547万円と比べて大幅に数字を伸ばしている。その要因としては、「ふるさと納税」への返礼品として認知度が上がり、サクランボ、ラ・フランスなどの生果が人気なこと、それに伴い加工品の受注も増加していることがあげられる。今年度からは、直売所の隣に新設したカフェ、イートインスペースによる飲食事業の売上が、2015年度比約300%と伸びていることが業績の向上の大きな要因となっている。

## 1. 経営者の理念、意識改革

1986年に法人化して事業を拡大させてきた



が、従業員の定着率が悪く、利益が残らない財務体質であった。現代表が2011年4月に就任してからは経営理念を刷新し、「全従業員とその家族の幸せを追求すると同時に美しい園地を守り、継承し地域の発展に貢献すること」とした。この理念のもと、従業員の働きやすさや労働環境を見つめ直すと同時に、今後の生き残りのため事業の幅を広げ、6次産業化を推進する中で、女性の力の必要性を強く感じてきたという。

以前は代表の母親しか女性正社員はおらず、商品開発やコンセプト、店内のレイアウトなどを男性中心で考えるのは困難であった。そのため加工やカフェ事業に関心の高い女性を従業員として積極的に雇用し、現在では4人にまで増加した。

女性の消費者目線の感覚による商品開発や店内のレイアウト等により、女性中心で担っている加工・販売、飲食部門での売上が伸びており（2015年150万円→2016年500万円）、会社全体の業績の向上につながっている。カフェや加工など女性が得意とする事業をより拡大させ、女性が働きたいと思う職場を目指しており、今後も加工や飲食部門の拡大を考えていくうえで女性の力は欠かせないと高く評価している。

## 2. 研修制度の積極的な活用

女性従業員は主に加工・販売部門、カフェなどの飲食部門を担っているが、女性従業員のスキルアップ・キャリア向上のため、その部門のみの専門にさせるのではなく、男性従業員と平等に扱い生産部門なども経験してもらうようにしている。そのため、内部研修ではプロの生産技術の講師を招いて実践的な勉強会を開催したり、外部研修では加工・商品開発に関するセミナーなどに積極的に参加できるようにしたりと、女性従業員も平等にスキルアップできるように工夫をしている。生産・販売・観光・加工・飲食まで、男性社員と同じ作業を行うオールラウンドプレイヤーの女性社

員もいる。様々な部門を経験することで、より得意な部門に活かすことができるとともに女性従業員のモチベーションの向上にもつながっている。

## 3. 女性が働きやすい環境の整備

2016年度には、労働環境を改善するために女性従業員の意見を反映した新社屋を建設した。社屋は白い外壁、開放的なデザイナーズショップなどを設置し、女性が働きたいと思えるような職場づくりに努めている。従業員用の休憩室、多目的トイレ、屋内トイレ、シャワールームも完備し、事務所を建物の中央部に配置することで、忙しい女性従業員の動線を改善するなど細部まで工夫を凝らしている。

勤務時間に関しては、2011年から閑散期のウインタータイムと繁忙期のサマータイムという変形労働時間を設けることにより、メリハリをつけた勤務体制をとれるようになり、仕事と家庭の両立を支援している。生産部門では、女性でも運転しやすいオートマチック車の導入や、サクランボの施設栽培ハウスの温度管理と水管理を自動化させることにより、容易に管理作業が行えるようにしている。

### 審査委員の声

女性従業員の消費者としての目線による商品開発や店舗レイアウトが、加工・販売部門や飲食部門が伸びる原動力となった。さらに、女性社員にも生産部門も経験してもらったり、外部での勉強会や内部研修に参加してもらったりと、幅広い知識と技能を持った人材の育成に努めている。新社屋の設計にも、社員の働きやすさを向上させるための工夫が各所に見られるほか、どうしても発生する季節による仕事の繁忙に合わせて柔軟な勤務体制を導入するなど、ソフト面での対応もしっかりと進められているところが評価できる。